



「ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース大会」
20 回目の記念大会



令和元年7月1日現在

人口	14,026 人
男性	6,781 人
女性	7,245 人
世帯数	6,552 戸

6月30日に開催された「ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース大会」、今年で20回目の開催となりました。当日はあいにくの悪天候となったため、本来は全長21.6km、標高差1270mのコースを短縮し、ゴールを美鈴湖付近に設定。全長約47km、標高差約400mのコースとなりました。あいにくの天気にもかかわらず、約780人が参加。チャンピオンカテゴリーの優勝者は14分余りでこのコースを走破しました。

20年続いたこの大会、今回のコース変更にも、およそ400名のスタッフがスムーズな運営のために尽力し、また地元の協賛企業の力によって支えられています。今後どのような形で続いていくか、見守っていききたいところです。



本郷歴史講座 (第1回)

本郷公民館では、本年度、本郷歴史講座のシリーズ開催を予定しています。その記念すべき第1回目が、5月13日(月)、14時から本郷歴史研究会との共催で開催されました。

講師に元松本城管理事務所研究専門員の後藤芳孝先生をお招きし、「浅間と松本城」と題して約2時間余りの講演。浅間を中心に、古墳時代から近世にかけての歴史を、後藤先生が作られた資料をもとにお話しされ、参加した44名は熱心に耳を傾けました。

南浅間松寿会藤棚に集う

5月18日(土)晴天の下、大輔原公園において恒例のゲートボールと藤の花見会が開催された。

心地良い陽気の中、多くの人が参加され、ゲートボールで汗を流したあとは、藤棚の揺れる藤の房を眺めながらの花見会。焼肉とビールに舌鼓を打つ和やかな雰囲気の中、松寿会の絆と親睦を深める良き時間となった。



御殿山親子ウォーキング

6月1日(土)、快晴の空の下、本郷公民館と本郷地区子ども会育成会の共催で御殿山親子ウォーキングが開催されました。昨年度を上回る、大人6名、子ども9名が参加。

午前9時に本郷公民館を出発し、浅間温泉内の共同浴場や源泉、神社などを見ながら御殿山へ向かいました。山の中では季節の植物などを探しながら展望台へ向かい、途中では早くもセミの声が聞かれました。伐採作業が行われていたため、予定していたルートを一部変更しましたが、充実した土曜日の午前中でした。



水汲町会

変わりゆく風景

水汲地区の北部は昔から田んぼが広がり、5月のゴールデンウィーク後には田植えが済んだ緑の田園地帯が広がっていたものでした。水路には虫が飛び、ドジョウや鮒が捕れた穏やかな風景とは異なり、本年度は写真の通りにコンクリートの世界が広がっています。

水汲・原の両地域は、心地よい暮らしを支える

わがまち わが町会

私達の町会は、町会活動は各々ですが、3・5・6・7の4町会で協力して公

民館活動をしています。

大きなものとして、8月横田ふる里まつり、9月最近では中止の町会もあるなか横田グラウンドでの町会家族ぐるみ大運動会、11月文化祭です。毎月活動しているものとして、ふれあい健康教室(ストレッチ体操、歌唱、ハンドベル、健康相談など)、公民館一日開放(卓球、囲碁、健康マージャン)。年3回、男性の料理教室。年2回、グラウンドゴルフ大会。子供会との

バランスのとれた生活環境が整っているという事で、70区画の宅地造成が計画されています。日本全国の各地で人口減少がささやかれている今般において、人口が増えて良いという声も一部で聞こえてきますが、新たに入居してくる多くの人々との対話が、今後の重要な課題となることではないでしょうか。



赤羽教育長に要望書を手渡す 田口本郷地区町会連合会会長



松門文庫を通じ歴史や記憶をいかに留め伝えるか

5月30日、市に松門文庫の保存・活用を求めた要望書を提出しました。

を学ぶ勉強会や見学会などが開催されました。

12月には本郷地区の地域づくりに関わる13団体が「松門文庫を考える会」を設立し、主催した「松門文庫を語る集会」では本郷地区のみならず広く市民の皆さんと議論を重ねました。

二 保存活用の方向性

「つどう場」「歴史を語る場」「学都松本を伝える場」「継続する活用」をキーワードに建物を保存し、地域の象徴として活用する。

三要望書の主な内容

(一) 市は文化財として残すことを確認し、建物の改修方法や資金、利活用方法の検討

四 教育長・教育部長から

本郷・和田地区住民による地域の文化財の再確認、再発見の営みは地域づくりの視点からも市にとって貴重なものである。

要望をもとに、(一) 地域の文化財としての再評価・価値付けを行い(二) 建物の耐震性など必要な調査を実施し(三) 地元と相談しながら、松門文庫の保存活用について検討を行いたいとの考えが示されました。

一 経過
平成30年度、住民有志の松門文庫保存に向けた意識の高まりを受け、専門家を招き松門文庫の建築的・文化的価値



を通じて各年代が楽しめるよう4町会協力して様々な活動をしています。

